

北魏 石造仏教彫刻の展開

2013年9月7日(土)―10月20日(日)

大阪市立美術館は、世界有数の中国仏教・道教彫刻―山口コレクションを所蔵する美術館として、国内よりもむしろ海外で広く知られています。

「中央は明カニ古式ニシテ鳥仏師のものト毫モ異ナルコトナシ 北魏のものカ」

岡倉覚三(天心)は明治26年(1893)、中国を代表する石窟寺院のひとつ河南・龍門石窟を「発見」します。冒頭の言葉は、岡倉が龍門石窟を発見したその日の日記の記述です。岡倉が目にしたそれは、飛鳥時代の止利仏師・止利派仏像のルーツとしての北魏仏でした。これより120年間「北魏=飛鳥仏の源流」という定説のもと、現行の高校日本史の教科書もこれを踏襲しています。しかしこの定説は、そろそろ見直すべき時期を迎えているかもしれません。

本展覧会では、国内に収蔵される主要な優品と、山口コレクションをはじめとする館蔵作品を加えた、約60件により、北魏石造仏教彫刻の全体像を浮き彫りにします。ぜひご覧下さい。



如来坐像 北魏 天安元年(466) 本館蔵(山口コレクション)

関連イベント

9月21日(土)

特別講演会「中国古代寺院に迫る」

共催:京大文学部人文科学研究科

河北・山西の寺院址に関する最新の発掘成果をご紹介します。

1 「河北鄴城彭城仏寺と北呉莊仏像埋藏坑の発掘」

朱岩石氏(中国社会科学院考古研究所漢唐考古研究室主任)

2 「山西童子寺遺址の発掘」

李裕群氏(中国社会科学院考古研究所边疆民族与宗教考古研究室主任)

3 「太原市西山龍泉寺唐代仏塔基址・地宮の発掘と出土舍利荘嚴具」

常一民氏(山西省太原市考古研究所副所長)

10月5日(土)

講演会「北魏仏教造像概論―雲岡石窟を中心に―」

八木春生氏(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

10月12日(土)

講演会「北魏石造彫刻の地方性」

齋藤龍一(当館主任学芸員)

9月23日(月・祝)

レクチャーコンサート「古琴の調べ」

中国伝統楽器・古琴(七弦琴)の魅力をご紹介します。

演奏:山寺美紀子氏

(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科研究科研究員)

解説:山寺三知氏(國學院大學北海道短期大学部国文学科教授)

会場:大阪市立美術館 1F講演会室

時間:午後1時30分より

(講演会は90分、コンサートは60分を予定しています。)

定員:150名(先着順。当日午後1時より整理券を配布します。)

※参加無料ですが、本展の観覧券が必要です。



左 三尊像 北魏 6世紀前半 東京国立博物館

上 二仏並坐像 北魏 孝昌二年(526) 奈良・大和文華館

●特別展



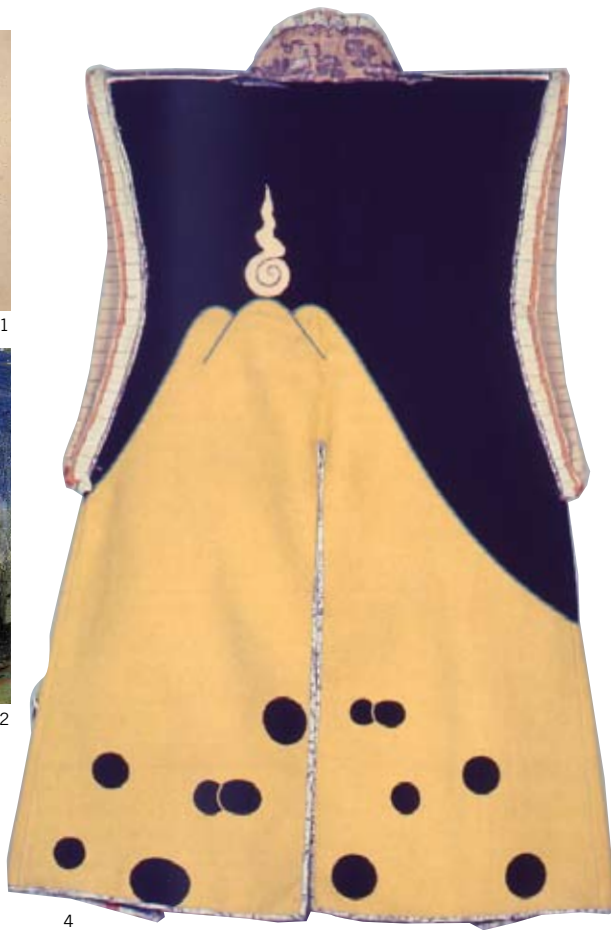
1



2



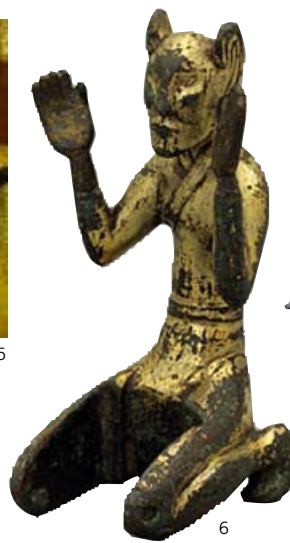
3



4



5



6



7

◎記念講演会

11月9日(土)午後1時30分～3時

「ミュージアムとコレクション」

講師：養 豊氏(兵庫県立美術館館長・大阪市立美術館名誉館長)

◎美術講座

11月2日(土)、10日(日)、17日(日)、

23日(土・祝)、24日(日)、30日(土)

午後1時30分～3時

大阪市の美術館・博物館学芸員による美術講座を開催いたします。

場所：大阪市立美術館 講演会室

定員：150名(当日13時より整理券を配布。先着順) 詳細はチラシ、ホームページをご覧ください。http://www.osaka-art-museum.jp/sp_evt/osaka-shiho/

◎併設イベント

11月16日(土)

午後2時～3時

能に親しむコンサート「なにわの能物語を聞く」

定員：120名(当日13時より整理券を配布。先着順)

1. 花卉図冊 惲寿平(1633～1690)

清時代 17世紀 本館蔵(阿部コレクション)

2. 大阪市指定文化財 煉瓦焼

佐伯祐三(1898～1928) 昭和3年(1928)

大阪新美術館建設準備室

(山本發次郎コレクション) ※後期展示

3. 交趾袖 大亀香合

明時代 17世紀 藤田美術館

4. 富士御神火文黒黄羅紗陣羽織

豊臣秀吉(1537～98)所用

桃山時代 16世紀 大阪城天守閣

5. 柳橋水車図(部分)

長谷川宗也(1590～1667)

桃山～江戸時代 17世紀

大阪歴史博物館(前田コレクション)

6. 青銅鍍金銀 仙人

後漢時代 1世紀 本館蔵(山口コレクション)

7. 重要文化財 青磁象嵌 童子宝相華唐草文水注

高麗時代 12～13世紀

大阪市立東洋陶磁美術館

(住友グループ寄贈 安宅コレクション)

再発見! 大阪の至宝

—コレクターたちが愛したたからもの—

2013年10月29日(火)—12月8日(日)

大坂(大阪)は政治や外交、交通や経済との関わりから、古くから人間と物産と金融の集積地でした。近代以降は経済界の実業家たちが、いろいろな「数寄、の道に足を踏み入れて多彩なコレクションを形成してきました。こうした大阪や関西のコレクションは、収集者の死後に散逸してしまったものが大半ですが、自らの収集品を市民共有の文化遺産と考え、次代への継承を意識するコレクターたちもいました。そうしたコレクションの受け皿となった

のが、国公立の美術館・博物館であり、コレクター自身を母体とした私立の美術館・博物館でした。大阪市立の美術館・博物館も、市民の情操の向上や学術の発展に寄与するために、寄贈や譲渡によって大型の個人コレクションを受け継ぎ、展覧会活動を充実させてきました。

本展は、大阪市立の美術館・博物館の美術作品が一堂に会します。加えて近代大阪のコレクターの収集を母体とした私立の美術館・博物館の代表的な作品と、

大阪市立美術館の寄託作品の一部も展覧し、美術品収集の軌跡をコレクターたちのまなざしとともに振り返る試みです。およそ160件の作品を「中国美術・韓国美術へのあこがれ」「日本美術の豊饒」「私立美術館に開花したコレクション」「大阪近代美術の諸相」の4章から構成して展覧することで、コレクションを育んだ大阪や関西の地域の感性を浮き彫りにしながら、大都市の欠かせない施設であるミュージアムとコレクションの関係を再考します。